

令和元年9月定例会 総括審査会

川田昌成議員



委員	川田昌成
所属会派 (質問日現在)	ふくしま未来ネット
定例会	令和元年9月
審査会開催日	令和元年10月1日(火)

川田昌成委員

まず県民運動についてである。

健康に勝る宝なしと言われ、常々現場主義を唱える知事だけに地域に密着した運動が必要である。

そこで、健康長寿の実現に向けた運動の取り組み強化について、知事の考えを聞く。

知事

県民が健康であること、笑顔であること、長寿であることは県民全ての願いである。一人一人が健康に関心を持ち、日ごろから健康づくりの後押しとなる県民運動としての広がりが必要であることから、市町村長とのトップセミナーの場において、「私たちが、一番やらなければならないのは、健康長寿」との思いを一つにしたところである。

食、運動、社会参加を柱にベジファーストやウオークビズの普及拡大、地域におけるスポーツ環境の整備など各界各層にわたる活動を通して県民誰もがができることから実践し、人も地域も笑顔で元気な福島県となるよう、市町村や関係団体の取り組みと連動し、県民運動を積極的に展開していく。

川田昌成委員

県民の意識向上が必要であるため、笛吹けども踊らずではなくさらなる運動の強化を願う。

次に、人口問題についてである。さきに斎藤健治委員からも質問があったとおり、人口問題は難しい。

そこで、県は定住促進に向け、より深く地域とつながる人の流れをどのように構築していくのか。

企画調整部長

地域とつながる人の流れをつくるためには地域の生活を実際に体験してもらうことが重要であるため、集落の活性化に取り組む大学生グループの派遣、ふるさとふくしまワーキングホリデーや首都圏の若い世代と地域のキープレーヤーとの交流事業等を実施している。

引き続きさまざまな機会を創出し、本県とつながる人の流れを拡大していく。

川田昌成委員

環境が人をつくり、人が環境をつくると言われるが、ふるさとふくしまはすばらしい環境であると認識しており、「福のしま」にしたいと思っている。

将来展望としてどのような施策を講じているのか。

企画調整部長

「福のしま」については先ほど答弁したとおり、地域活性化、地域振興の原点は自分の地域に誇りを持つという「ふくしまプライド。」を持つことである。

そのプライドを確保できるよう、さまざまな施策に取り組んでいく。

川田昌成委員

私は、本県を多くの人に知ってもらうことが大切と考えている。

福島よさを発揮していくことが施策として大切であるため、再度答弁願う。

企画調整部長

福島への人の流れをつくるには情報発信は重要であるため、平成19年度からふくしまファンクラブをつくり1万7,000名の会員を集めている。

また、毎年末にはふくしま大交流フェスタにおいて1万人を超える来場がある。

さらに、ことしから年2回「ふくしま0次会～30歳の大同窓会～」において福島情報を効果的に発信できるよう取り組んでいる。

川田昌成委員

震災から8年と半年が過ぎ、ピンチからチャンスを生み出す絶好の機会であるため、さらなる施策を願い最後の質問を終わる。